



ポローニアは県花「桐」の学名です。

令和7年12月3日発行

発行／岩手県高等学校PTA連合会

[事務局] 盛岡市上田三丁目2-1 TEL(019)625-6386
E-mail: iwa-kouren@aroma.ocn.ne.jp FAX(019)613-7795
http://iwateken-kouren.org/

岩手の部活動を支えるPTA

今年のラグビー部は、4年ぶりに全国7人制ラグビーリーグ戦で優勝する事が出来ました。勢いをそのままに東北大会でも準優勝となり、今年の結果だけを見ると順調に見えますが、昨年まで決勝へ進む事が出来ず苦しい状況が続いていました。その状況を見てきた私たち保護者は勝ち進む彼らの姿に親としてだけでなく、一番のファンとして良い思いをさせてもらっています。これまでの結果に慢心する事無くひたむきに練習に取り組み、みんなが笑顔で最終目標である全国大会での勝利を実現して欲しいと切に願っています。

高校に入学してから今日に至るまで、ことを振り返つてみると、保護者として、

慢心せずに前進を

岩手県立黒沢尻北高等学校ラグビー部
保護者 福原 博志



▲高総体優勝後集合写真



▲全国7人制大会決定直後の集合写真



▲岩手県大会集合写真

彼らの創り上げてきた音楽

盛岡第三高校吹奏楽部部員

保護者 荒井真知子



▲東北大会にて



▲第46回サマーコンサート

対話」にふさわしく、色彩あふれた絵画のように、雄大な「海」となって会場をなつた今年の東北大会後、娘たち3年生は、この創り上げた音楽を後輩に託し、引退しました。慰めや労いの言葉をさがす親に、「後悔はない」と言いきつた娘。「ここまで創り上げてきた音楽は、みんなと過ごした日々そのものだから」と笑った娘を誇りに思いました。仲間や先輩後輩たち、コーチや先生方、何ものにも替えられない、こんなにも愛おしい音楽を娘といっしょに創り上げてくださって、本当にどうもありがとうございました。家族一同、心より

日々砂まみれの練習着を洗い、体作りのご飯を提供する等のサポートをする事で彼らの部活動を支えてきました。グラウンドへ足を運び成長している姿を見ると感概深く、その逞しくなった姿を誇らしく思います。部員たちが成長出来ているのは、私たちの支えだけでなく、日々指導してくださいさつしている監督、コーチの皆様の手厚い指導があつての事です。これからも指導陣と連携しながら部員たちをサポートし、目標の達成に向けて後押ししていくきます。少しでも長く試合をしていく姿を見せて貰うことを祈っています。

日々砂まみれの練習着を洗い、体作りの基礎を固め、練習を重ねる。理想を求めるあまり、時として、それぞれの方向性が合わず、悩み、苦しみ、何度も泣きながら、書き込まれた文字や色は、日々進化してきた証。音楽を創り上げるとは、「音」一音に魂を込めるよう

ななものでした。保護者たち家族は、ただ見守ることしかできません。そして集大成となつた今年の東北大会後、娘たち3年生は、この創り上げた音楽を後輩に託し、引退しました。慰めや労いの言葉をさがす親に、「後悔はない」と言いきつた娘。「ここまで創り上げてきた音楽は、みんなと過ごした日々そのものだから」と笑った娘を誇りに思いました。仲間や先輩後輩たち、コーチや先生方、何ものにも替えられない、こんなにも愛おしい音楽を娘といっしょに創り上げてくださって、本当にどうもありがとうございました。家族一同、心より

大槌高校の魅力発信とともに進むPTA

全国大会 団体表彰

大槌高等学校 PTA会長

箱山 智美



第74回全国高等学校 PTA連合大会に
おきまして、大槌高

校 PTAが、全国高等学校 PTA連合大会に
長表彰を受賞いたしましたことをうれしく思
います。

今回の受賞は、PTA先輩方の献身的な取
り組みが評価されたものであるとともに、長年
にわたりご協力いただいた校長先生をはじめ先
生方のお力添えがあつたからと思っています。敬
意を払うとともに心から感謝申し上げます。

私は今回、初めて高P連全国大会に参加い
たしました。6000人を超える日本各地から

全国高P連会長表彰(役員表彰)を受けて

全国大会
役員表彰

川上 博基
高P連 前会長

6月4日の岩手県
高等学校PTA連合

会総会において無事
2年間の任期を終え、

21日に始発の新幹線で陸路移動し、22日は終
了後観光もせずにとんば返りという慌ただしいス
ケジュールでしたが、会場でお会いした岩手の
皆さんから次々にお祝いのお声掛けをいただき、
本当に多くの皆さんに支えられた2年間だった
との思いを抱きました。

私の会長としての唯一の業績は、身を以て自
転車運転時におけるヘルメット装着の重要性を世
に訴えたことだと自負しておりますので、今後
もヘルメット装着を続けることをお誓い申し上げ、
皆様への御礼の言葉とさせていただきます。本当
にありがとうございました。

三重県は私にとって未訪問の都道府県であつ
たため、訪問の機会を与えていただき大変あり
がたかったです。ちなみに、三重県に訪問した
ときも「なんだっ」といいました。

第74回東北地区高P連仙台大会 7月1日(火)～2日(水) 仙台サンプラザホール 仙台サンプラザホテル

第74回全国高P連大会三重大会 8月21日(木)～22日(金) 津市産業・スポーツセンター

津市産業・スポーツセンター

ボローニア

の参加者（※コロナ禍以前は1万人を超えてい
たそうです）に圧倒され、また、こんなにも大
きな組織に支えられながら活動しているのだと
いう安心感と頼もしさを実感することができま
した。

大槌高校では、大槌高校魅力化推進事業によ
り、「復興研究会」「探求活動」「はま留学」東
京大学との協働した「はま研究会」など特色あ
る取り組みを進めています。私たちPTAは、
学校の取り組みを理解し、子供たちを積極的に
応援できるよう発表会への参加をPTA研修
に位置付け、「大槌高校の魅力発信とともに進
むPTA」を目指しているところです。

各校のPTA活動が充実発展していくこと
もに、私たち保護者も楽しみながら成長できる
ことを心より祈念しております。

仙台大会は大河原産業高校ギター部による演
奏で開幕しました。3曲目「花笠音頭」は、昨
夏の山形大会への敬意が込められているようで
した。

「やれる理由こそが着想を生む」「はやぶさ」
『はやぶさ2』を完遂させた力

オーストラリア国立大学教授・川口淳一郎氏
による講演をいただきました。今、見えている
ものは過去のものであり、まだ見えていない未
来を探すことが大切であるという。自分だけし
か思っていないのではないか、と思う時こそ
チャンス。また、失敗から思いがけない発見も
ある。気づいて受容することから「セレンディ
ピティ」が生まれる。小さな完成よりも何かを
孕む未完成の方がはるかに大きなものがあると
語られました。

午後は笑顔が印象的な
仙台育英学園高校チア
リーディング部の演技で
始まりました。研究協議
では、岩手県からは宮古
北高校の藤倉琢也先生が
「小規模校のPTA活動
について」と題して発表。

特色ある取り組みであり、
PTAの理想の形がある
と助言者からのコメント
がありました。来年は
秋田大会。なまはげの子
ども「んだっ」とも登場
し、仙台大会は幕を閉じ
ました。



▲木村会長と表彰された方々



▲川上前会長と佐藤事務局長

1日目の開会行事では各種表彰が行われ、続
いて4つの分科会が開催されました。第3分
科会では、アソビジョン株式会社代表取締
役國友尚氏による講演「A-I時代における
WELL-beingなキャリアデザイン」
青春時代における感情・感動体験の重要性
が行われました。日本の子どもたちは学習到達
度において世界的に高い水準にあります。が、目
的や使命を見出すことに悩む傾向があるとい
ます。心躍る体験や好奇心を原動力に、洞察力、
胆力・影響力を育むことが、知識やスキルの習
得につながると語られました。幅広い経験や読
書が必要であり、大人の寛容な見守りが重要で
あると強調されました。

2日目には、井戸屋株式会社代表取締役社長
中島伸子氏による記念講演「尊厳は明日の力
壁を開ける手中の鍵」が行われました。トン
ネル事故の生存者としての体験を通じて、生命
は人類に与えられた時間であること、「自分だけ
の+1」を見つけることの意義を語り、誠実
な心が人生の要となることを伝えられました。
「常若(とこわか)」思想に通じるPTAの
在り方は、「輝く未来を切り開け」という来夏
開催の大分大会サブテーマへとつながっていく
と思われます。今年も大会旗は鮮やかに翻り、
2026大分大会へと引き継がれました。

出会いはじまる常若のくに 「集い、想い、継なぐ」

見つけよう 一緒に探しませんか？

多様性の時代にできること
△の重なる明日への力

個を生かす時代のPTA活動
△一緒に探しませんか？

出会いはじまる常若のくに
「集い、想い、継なぐ」

三つの重なる明日への力

箱山 智美

第74回全国高等学校 PTA連合大会に
おきまして、大槌高

校 PTAが、全国高等学校 PTA連合大会に
長表彰を受賞いたしましたことをうれしく思
います。

今回の受賞は、PTA先輩方の献身的な取
り組みが評価されたものであるとともに、長年
にわたりご協力いただいた校長先生をはじめ先
生方のお力添えがあつたからと思っています。敬
意を払うとともに心から感謝申し上げます。

私は今回、初めて高P連全国大会に参加い
たしました。6000人を超える日本各地から

三重県は私にとって未訪問の都道府県であつ
たため、訪問の機会を与えていただき大変あり
がたかったです。ちなみに、三重県に訪問した
ときも「なんだっ」といいました。

22日の2日間にわたって三重県で開催された第
74回全国高等学校PTA連合会大会に出席させ
ていただきました。

三重県は私にとって未訪問の都道府県であつ
たため、訪問の機会を与えていただき大変あり
がたかったです。ちなみに、三重県に訪問した
ときも「なんだっ」といいました。

22日の2日間にわたって三重県で開催された第
74回全国高等学校PT

皆さんに感謝

大船渡高等学校PTA前会長



大坂 英人

第七十四回東北地区高等学校PTA連合会仙台大会にて感謝状を頂戴してまいりました。これまでお世話になつた皆様方には感謝しかありません。同校でのPTA活動は楽しい一言に尽きます。こんなにもPTA活動が楽しく充実した一年はありませんでした。挨拶運動、東高祭での活動、全てにおいてPTA会員が協力、団結をして行事を盛り上げてもらいました。東高祭ではPTA展に参加する会員の皆さんには息子、娘さんのクラスマッチに着ていたクラシックシャツを着て東高祭に参加してもらいました。せっかく作つたので来場する皆さんにも見ていただけたと思いましP.T.A会員の皆様に協力していただきまし

支え合いの力に導かれて

個人表彰
東北大賞

高田高等学校PTA前会長

中野 貴徳

役員・会員の皆さまの惜しみないご協力がありました。学校と家庭、地域が一体となるものになつたと感じております。

とりわけ、役員の方々が互いに知恵を出し合い、時には励まし合いながら活動を支えてくださったことが、今日の成果につながっています。皆さんのが私の原動力であり、この表彰はその仲間一人ひとりへの贈り物であります。

岩手県立高田高等学校PTAでは、「T×ACTION」を合言葉に、生徒一人ひとりの主体的な挑戦を支える活動を続けてまいりました。その根底には、校長先生をはじめとする教職員の皆さまの熱意と、PTA

歩んできた皆さまに、心より感謝申し上げます。

このたび、東北地区高等学校PTA連合会会長表彰(個人表彰)を賜り、誠に光栄に存じます。これまで共に歩んできた皆さまに、心より感謝申し上げます。

感謝
東北大賞

宮古北高等学校 教諭



藤倉 琢哉

第74回東北地区高等学校PTA連合会仙台大会が、7月1日・2日、仙

の時代にできること」をテーマとし、すばらしい講演やステージ発表などが行われ、とても有意義な2日間でした。2日の本大会では約1,100名の参加があつたとのことです。
研究協議発表について、発表者は本校の鈴木恵PTA会長の予定であったのですが、他用のため出席出来ないことになり、代理

として総務PTA担当の藤倉が発表を行いました。宮古北高校PTAでは、毎年何か特別なテーマを設けて活動していると、発表というよりは、一年間のPTA活動の紹介という内容になりました。
他県の発表校はすべて大規模校でしたので、本校の小規模校の活動は、参加者の皆様の目には新鮮に映ったようでした。どの高校の発表も、とてもよく準備され練られたものでした。
ステージの上は照明が強くてまぶしく、観客席があまりよく見えませんでしたので、さほど緊張せずにすみました。今回私が発表することになるとは予想していませんでした。意外なことから発表の機会を得て貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

発
東北大賞

東北地区高P連仙台大会で発表して

宮古北高等学校 教諭



大坂 英人

第七十四回東北地区高等学校PTA連合会仙台大会にて感謝状を頂戴してまいりました。これまでお世話になつた皆様方には感謝しかありません。同校でのPTA活動は楽しい一言に尽きます。こんなにもPTA活動が楽しく充実した一年はありませんでした。挨拶運動、東高祭での活動、全てにおいてPTA会員が協力、団結をして行事を盛り上げてもらいました。東高祭ではPTA展に参加する会員の皆さんには息子、娘さんのクラスマッチに着ていたクラシックシャツを着て東高祭に参加してもらいました。せっかく作つたので来場する皆さんにも見ていただけたと思いましP.T.A会員の皆様に協力していただきまし

た。会員の皆様なしには行事を成功することはなかつたと思います。本当にありがとうございます。
PTA会長に就任と共に令和六年度岩手県調査広報委員長に任命されて私に何ができるのだろうと思いながら東北地区調査広報委員会に参加致しました。東北六県の調査広報委員長が集まり各県からの選りすぐりの広報紙の中から順位を決めなければならず甲乙つけがたく苦慮致しました。委員の皆様の総意で決まり安心しました。各県の会長とも交流ができ充実した調査広報委員会でした。今後この出会いを大切にしていきたいと思います。
皆様のお陰で貴重な経験ができたこと感謝いたします。これからも県内PTAのご発展と会員の皆様のご活躍を心よりご祈念申し上げ受賞の挨拶をいたしました。この度は誠にありがとうございました。

受賞おめでとうございます

☆令和7年度岩手県教育表彰(いわて教育の日に表彰)
水沢農業高等学校PTA

☆令和7年度全国高P連会長表彰(三重大会表彰)
<団体表彰>

大槌高等学校PTA
久慈翔北高等学校PTA

<役員等表彰>
岩手県高P連会長 川上博基

☆令和7年度東北地区高P連会長表彰(仙台大会表彰)
<感謝状>

盛岡第一高校	川上 博基
遠野緑峰高校	阿部 一也
岩谷堂高校	小山 静人
大船渡東高校	坂英人

〈表彰状〉

盛岡農業高校	荒 和洋
水沢商業高校	古 樹恒
高田高校	中 貴

☆令和6年度第29回東北地区広報紙コンクール

◇優良賞 盛岡第二高校
盛岡二高PTA通信 令和5年度第2号
◇優良賞 盛岡北高校 MORIKITA第6号
◇奨励賞 黒沢尻北高校 黒陵vol.146

つなげよう みんなの心 未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること

第2回保護者つながる交流会 令和7年9月24日(水) サンセール盛岡



▲全体協議の様子

第2回保護者つながる交流会は、9月24日にサンセール盛岡にて開かれました。各校のPTA会長や母親委員のほか、健全育成委員や事務局員など81名が出席。来賓には岩手県教育委員会生涯学習文化財課括課長の藤井茂樹氏と、同課主任社会教育主事の佐々木透氏、そして秋田県高P連副会長兼輝き委員会委員長の河子和香子氏を招きました。

今回の講演では、日本コンディショニング協会認定講師である中田幸恵氏が登壇。同氏はマスター・コンディショニングインストラクターやプロフェッショナルコンディショーニングトレーナーのほか、ホムヘルパーの資格も持ち、盛岡市内でフィットネススタジオ「YUI-FITNESS COMMUNITY」を主宰しています。精神面と肉体面、健康面などから心身の状態を整えるコンディショニングをベースとしたレッスンで、ジュニアアスリートから90代のシニアまで通っているそうです。

中田氏は、「団塊ジュニア世代が65歳以上になる[2040年問題]について触れ、人口減少や少子高齢化によって人材が減ることで、医療や介護のサービスが受けにくくなることを解説。特に岩手県は、健康寿命が男女ともに全国ワースト1位であり、他県よりも介護のニーズが高い傾向にあります。中田氏は「自分が健康新しいと伝え、健康に配慮した生活を心がけることの重要性を語りました。

中田氏によると、健康を維持するためには「栄養（食事）と「運動」、そして「休養（睡眠）」という「健康の3本柱」のバランスを取ることが重要なのだそう。ただし、忙しい毎日の中で全てを理想通りに行なうことは難しいため、「まずは自分にできることから始めて、継続することが大切です」と教えてくれました。

その後、参加者は中田氏の手本を見ながら、肩を揺らしたり首をさすったりとコンディショニングに基づいた運動を体験。イスに座ったまま気軽にできる動作ばかりでしたが、終了後は多くの人がスッキリとした表情を浮かべ、体の変化を感じているようでした。

続いて、講演会の後は昨年も好評だったブリ

トーカーを実施。テーブルごとに各校のPTA活動に関する取り組みや、子どもたちのデジタルリテラシーについてなど、日頃の悩みなどを話し合っていました。

その中でも特徴的な取り組みとして紹介されたのが、盛岡市立高校のおみくじ企画です。同

校の文化祭で母親委員会が行つたもので、保護

者から集めたメッセージをおみくじの中に入れ

て子どもたちに配布しました。そこには受験生への応援や、友だちとの付き合い方に悩んだときのアドバイスなどが書かれており、子どもた

ちからも好評だったそうです。ほかにも、保護

者や友だちへの感謝の言葉を書いたメモを模造紙に張つてもらう企画を用意。子どもたちにとつて、日頃はなかなか言えない気持ちを表現する大切な場になつたようです。

今年のブリートーカーも、終了時間になつても話題が尽きず大いに盛り上がりました。同じ

PTA役員であり子育て世代でもある参加者に

とつて、悩みを共有できる場はとても貴重なもの。「来年も参加したい」と回答する人が多く、充実した様子をじませていました。

また、来賓として招かれた秋田県高P連輝き

委員会の河子委員長には、講演会およびブリ

トーカーに参加していただきました。閉会式では

「講演会では目からウロコのように感じる貴重な情報を得ることができました。またブリートー

クでは笑い声が多く聞こえたのが印象的で、同

じ悩みを持つ保護者同士の語らいは大切だと感じました。とても素敵なかつかり感覚で、交流会になつたと思います」と語つてくれました。

新たな『協調・創造・進取』 新しいPTAの門出

久慈翔北高等学校PTA会長

成田 敦子



令和7年4月に、久慈工業高等学校と久慈東高等学校が統合し、久慈翔北高等学校が開校しました。

今まで学んできた校舎で、それぞれの特色ある専門的な知識と技術を習得するべく、生徒たちは日々奮闘しながらも仲間とともに学校生活を送っています。今年6月、初



▲開校式 校旗授与の様子



▲クラスマッチ

の合同開催となつたクラスマッチでは、白熱しつつお互いを高め合う場面も見られ、保護者目線で胸が熱くなりました。これら多様性を生き抜く力は、「協調・創造・進取」の校訓のもとしっかりと培われていくでしょう。



▲来賓あいさつ 岩手県教育委員会生涯学習文化財課藤井総括課長



▲講師 中田幸恵氏



▲フリートークの様子



▲フリートークの様子



▲閉会式あいさつ 県高P連湯山健全育成委員会委員長



▲開会のことば 県高P連健全育成委員会稻邊副委員長



▲あいさつ 県高P連木村会長



▲講演会の様子



▲閉会式あいさつ 秋田県高P連呼子副会長（輝き委員会委員長）

第35回会長研修会

令和7年10月17日（金）
会場 ホテルメトロポリタン盛岡New Wing



▲講演 佐々木豊志氏



▲木村県高P連会長
あいさつ



▲来賓・盛岡農業高校
佐藤校長あいさつ

く迎えてくれます。とても良い雰囲気の中でPTA活動ができており、今後もこうして取り組みを継続していきたいです」と述べました。

両校の発表を受け、盛岡農業高校の佐藤校長は「PTAの皆さんのが楽しみながら活動することはとても大切ですし、積極的に学校と関わることで子どもたちにも良い影響が生まれると思います。近年はPTAのデメリットが注目されがちですが、メリットにも目を向けて活動を続けてほしいです」とコメント。木村県高P連会長も「両校ともユニークな取り組みで、学校とのコミュニケーションの場にもなっていると思います。他校の皆さんも、ぜひ楽しみながら活動し、より豊かな学びの場づくりにつなげほしいです」と語りました。

また、講演会では「アリコま高原自然

学校」の代表や「認定NPO法人み町のくわトレインクラブ」の代表理事などを務める佐々木豊志氏が登壇。「冒険体験は決断する力を育む」をテーマに講演していただきました。大矢は、「冒険ことは切って離せない」と語りました。

佐々木氏は、一冒険には物事を理解し論理や基準などに従つて決断する力が求められます。失敗を恐れずには挑む気持ちや不屈の精神を養うことで、どんな社会の変化にも対応できる「生きる力」が身に付いていく。そうした子どもたちを育てるためにはどのような体験の場を作り、「どう関わっていかかを考えながら活動しています」と語りました。

その後、岩手県教育委員会より自転車乗車時のヘルメット着用について協力依頼があつたほか、事務局より特別助成費やPTA加入に関する注意事項などが伝えられ閉会となりました。



▲研究協議 質疑應答



▲研究協議 質疑応答



▲研究協議の様子

高校生の自転車乗車用ヘルメット着用促進に向けて

岩手県教育委員会では、岩手県警察本部のご協力のもと、県内児童生徒の生命や心身の安全確保を最優先に考えた取組を進めているところです。令和5年4月1日から改正道交法が施行され、全ての自転車利用者のヘルメット着用が「努力義務化」となり2年余が経過しましたが、岩手県警察本部の調査では年代別ヘルメットの着用率は、全体的に昨年よりも向上したものの、依然として「高校生の着用率が最も低い」状況となっております。

域の皆様方のおかげだと心より感謝申し上げます。我が校の会員は100人前後と小規模ですが、その特性を活かし保護者と教職員を協働で事業運営を行っております。

地域の周辺文化祭はFTA活動で制作したDVDを設置する美化活動を実施。文化祭では生徒たちや来校者が共に楽しめる企画を生徒会役員と協力し取り組んでいます。

会をつくるなど、各種事業への参加者の増加に尽力しており、生徒の健全育成と社会教育の振興にPTAとして尽力していることが評価されたのだと思つております。

私が目指すPTAの形として「アットホームなPTA」があり、生徒・教職員・保護者が気軽になんでも話せる場で、みんなで楽しんでいける場所にしたいと考えて活動しております。小規模なPTAだからこそ出来るることを考えこれからも我が校に関わる全ての人と笑顔になれるような活動をして行きたいと思います。

この度は本当にありがとうございました。



▲PTA交流会（パン教室）



▲ BTA 屋台 (水農祭)

岩手県教育表彰 を受けて

水沢農業高等学校PTA会長

高橋
辰幸

第55回 事務局長研修会

令和7年11月14日(金)
会場／サンセール盛岡(盛岡市)

参加し、来年度の予定や加入PTA会員数などについて事務局から説明がありました。すべてのPTA会員が加入する「全国高P連賠償責任補償制度」の手引は、冊子からPDFへ切り替わり、1月中旬にメールで配布される予定です。

なお、全国的に問題になつているPTA未加入問題について、現在岩手県高P連では、ほぼ全員が加入している状況です。今後も入学式後のPTA説明会等で、PTAの意義や活動等について十分に説明をおこなつた上で、加入は任意であるが全員加入を丁寧にお願いしてほしいと呼びかけました。

また、今年度の特別助成費については、申請額が予算を大きく上回ったため、小規模校や新設校を優先する対応となりました。今後も状況に応じて同様の措置が考えられます。不明な点がある場合は事務局までお問い合わせください。

本研修会に関する事前アンケートでは、「PTA総会の委任状を電子化している学校を知りたい」という声が寄せられました。すでに電子化を進めている学校もありますが、委任状は紙で作成するのが一般的なため、導入する際は規約にその旨を明記しておくと安心です。

最後に、地区ごとに分かれて来年度の打ち合わせが行われ、終了した地区から順次解散となりました。

手県高P連では、ほぼ全員が加入している状況です。今後も入学式後のPTA説明会等で、PTAの意義や活動等について十分に説明をおこなつた上で、加入は任意であるが全員加入を丁寧にお願いしてほしいと呼びかけました。

また、今年度の特別助成費については、申請額が予算を大きく上回ったため、小規模校や新設校を優先する対応となりました。今後も状況に応じて同様の措置が考えられます。不明な点がある場合は事務局までお問い合わせください。

手県高P連では、ほぼ全員が加入している状況です。今後も入学式後のPTA説明会等で、PTAの意義や活動等について十分に説明をおこなつた上で、加入は任意であるが全員加入を丁寧にお願いしてほしいと呼びかけました。

手県高P連では、ほぼ全員が加入している状況です。今後も入学式後のPTA説明会等で、PTAの意義や活動等について十分に説明をおこなつた上で、加入は任意であるが全員加入を丁寧にお願いしてほしいと呼びかけました。

また、今年度の特別助成費については、申請額が予算を大きく上回ったため、小規模校や新設校を優先する対応となりました。今後も状況に応じて同様の措置が考えられます。不明な点がある場合は事務局までお問い合わせください。

第55回事務局長研修会には61校が参加し、来年度の予定や加入PTA会員数などについて事務局から説明がありました。すべてのPTA会員が加入する「全国高P連賠償責任補償制度」の手引は、冊子からPDFへ切り替わり、1月中旬にメールで配布される予定です。

なお、全国的に問題になつているPTA未加入問題について、現在岩手県高P連では、ほぼ全員が加入している状況です。今後も入学式後のPTA説明会等で、PTAの意義や活動等について十分に説明をおこなつた上で、加入は任意であるが全員加入を丁寧にお願いしてほしいと呼びかけました。

手県高P連では、ほぼ全員が加入している状況です。今後も入学式後のPTA説明会等で、PTAの意義や活動等について十分に説明をおこなつた上で、加入は任意であるが全員加入を丁寧にお願いしてほしいと呼びかけました。

第55回事務局長研修会には61校が参加し、来年度の予定や加入PTA会員数などについて事務局から説明がありました。すべてのPTA会員が加入する「全国高P連賠償責任補償制度」の手引は、冊子からPDFへ切り替わり、1月中旬にメールで配布される予定です。



「風の便り」

岩手県高P連会長
木村 元思

先日、ある番組で「非認知能力」を意図的に高めるための習い事がビジネス化され、近年急速に拡大しているとの報道に驚いた。

非認知能力は、レジリエンス、創造力、洞察力、自己肯定感、協調性など数値化されにくい能力として定義されるが、本来は子どもたちの普段の集団遊び、自然とのふれあい、学校での部活動をはじめとする協働活動の中で、ごく自然に育まれる力だと理解していたからだ。

こうしたビジネスが必要とされる背景には、子どもを取り巻く社会環境の変化はもとより、教育現場へのITやAI導入が、少なからず心理的な影響を与えているのだろうと感じる。例えば、生成AIを活用すれば、誰でも必要な時に、必要な情報を、必要な量だけ瞬時に享受できる。まさに学力や知能といった認知能力を効率よく蓄積できる合理的な学習システムであることは確かだ。

一方で、そのようにして「編集済みの与えられた知識」は、自分にとって都合の良い、限定された情報で構成される傾向が強く、私たちはその信頼性を疑う。「ひと手間」を省く認知バイアスに陥りがちだ。ゆえに、情報過多の時代に生きる子どもたちにとって、常識を疑う力や多様性を許容する力を育むために、異なる価値観を持つ人や不確実性に富んだ自然との関りを通じた、より主体的な学びの場がこれまで以上に必要とされているのだろう。

私たち親世代もまた、固定観念という殻から脱却し、常に視野をクリアに保つことを心掛けたい。そんな時、PTA活動で交わされる確かに「風の便り」が、その助けになることを期待しています。



▲研修旅行（八戸）



▲教育振興費で購入した事務用品



▲企業見学（半導体工場）

護者間の親睦を深めることもできます。一方で、コロナ禍での感染防止という経験は、オンラインなどの集まらなくとも協議等が可能となる便利なツールをもたらした反面、人が集う機会を減少させ、見直しや中止の対象となつた活動も少なくないのではないかと感じています。昨年に活動が縮小すれば、PTAの趣旨に賛同いただける方も少なくなり、教育環境の整備という役を担うPTA活動にも支障をきたす可能性もあります。一方で、コロナ禍以前に戻りつつある現在、我々に必要なことは、PTAが教育環境の整備に必要不可欠な組織であることを再認識するとともに、生徒、保護者、学校の三者にとって有益となる活動の方法を模索することではないかと感じています。

今後もPTAの趣旨を理解の上、保護者、教員の皆様の御協力をお願いし、黒沢尻工業高等学校からの報告とさせていただきます。

がんばる岩手

第29回

黒沢尻工業高等学校PTA会長 武田 健



▲黒工祭（ママカフェ）



今後のPTA活動へのコロナの影響

令和5年5月のコロナ5類移行から2年が経過しました。皆さん的生活はコロナ禍前の活動水準を取り戻すことが出来たでしょうが？

私の子供は令和5年度入学であるこれから、コロナ禍と比較すれば部活等は活発に、生活は穏やかに、コロナ禍以前の水準に近い形で生活できているのではないかと感じています。昨年に文化祭も開催でき、感染症に配慮しながら食堂の経営や、食品販売等の物販も実施しました。

岩手県高P連委員会活動報告

本年度進路対策委員会の委員長を務めさせていただきます。山田高校PTA会長の笹花弘行です。去る6月10日に山形市で東北地区高P連総会並びに第1回各委員会が開催されました。東北地区各県の対策委員の方々と連携を図りながら、意見交換する中で、保護者として子供の進路にどのように且つどの程度関わったらいか悩ましいという意見が出され、出来るだけ本人の希望を尊重しつつ将来失敗のない進路を目指してほしいという願いは全員同じであると感じました。

進路について



進路対策委員長
笹花 弘行
(山田高等学校)

6月18日にサンセール盛岡にて第1回委員会を開催し、今年度の活動について協議を行いました。今年度も引き続き、登校時一声運動・マナーアップ運動・自転車保険加入・ヘルメット着用状況調査及び第2回保護者つながる交流会を実施することとなりました。

各校におかれましては、登校時一声運動・マナーアップ運動の実施報告及び自転車保険加入・ヘルメット着用状況調査報告にご協力いただき、ありがとうございました。今後も子どもたちの登下校時の様子を見守ると共に、交通事故の「被害者にならない、加害者にさせ

第2回保護者つながる交流会を開催

健全育成委員長
湯山 栄大
(一関第二高等学校)

ない」ことを目的とし、交通ルールの順守をふまた本活動へのご協力を願いました。

また、9月24日に開催した第2回保護者つながる交流会では、多くの皆様にご参加いただきました。

さき心より感謝を申し上げます。本交流会は、「つなげようみんなの心、未来を担う子どもたち

の幸せを願い今できること」をスローガンに、情報交換や研修を通して課題を共有し、PTA活動につなげることを目的として、昨年度より開催しております。

グループに分かれてのフリートークでは、限られた時間の中で、各校のPTA活動の紹介や子育ての悩みなどを共有することができます。参加者の笑い声と笑顔あふれる時間となります。

保護者つながる交流会は、単位PTA母親委員会の有無や性別に関わらず参加できます

ので、支えあう仲間づくり、情報交換の場として、次年度以降も多くの皆様にご参加いただきますようよろしくお願いします。

広報紙を通じて魅力発信を



調査広報委員長
小野寺 幸司
(福岡高等学校)

日頃より調査広報委員会活動にご協力を賜り心から感謝申し上げます。特にも、当委員会が主催する広報紙コンクールにご協力頂いておりますことにお礼申し上げます。

今年度の委員会活動は、6月の東北高P連第1回委員会からスタートし、年度内に3回の委員会を予定しております。主な活動は、広報コンクールの実施で各県から推薦頂いた広報紙を審査するという大役を担うことになります。8月の第2回委員会においては、模擬審査会と専門家から審

岩手県学生会館入寮生募集

~初めての東京生活を支える安心の寮生活~



[会館施設概要]

- 所在地
〒171-0043 東京都豊島区要町2-5-5 JR池袋駅まで徒歩15分、東京メトロ要町駅徒歩5分

●資格

岩手県出身者で大学院、大学、短期大学、専門学校等に通学する人

●寮費(令和7年4月1日より改定)

月額 90,500円(朝夕2食・自治会費含む)
入寮時諸経費 入寮金 60,000円
寮維持資金 60,000円

●室内 洋室13.5m²(全室個室)

●設備 机、本棚、ベッド、クローゼット、洗面化粧台、冷暖房器等

[申し込み・問い合わせ]

公益財団法人 岩手県学生援護会(岩手県学生会館内)
TEL:03-3972-4783
※募集要項、申込書類はホームページから
<http://www.gakuseikaikan-iwate.or.jp/>

査に向けた助言を頂きました。全委員が初めて担当役割ということで、「どのような視点で審査をすれば良いのか?」「個人的価値観になりかねない」など不安な事ばかりでしたが、専門家のお話を聞きしたことで、審査するにあたっての共通認識を得ることができました。2月の第3回委員会では、今年度の本審査となりますので心して審査に望みたいと思います。

いましては、6月の第1回委員会から2月の第3回委員会を予定しております。県委員会では、東北高P連広報紙コンクールへ推薦する広報紙3作品を審査することがあります。こちらについても、審査委員が共通の視点を持ちながら審査できるように進めて参りたいと思いま

す。今後も広報紙を通じて各校の魅力が発信されることを願っております。

おらほのPTA

りんごとともに

岩手県立盛岡ひがし支援学校

PTA会長

鷹脣 正輝



生徒一人ひとりが主役



岩手県立沼宮内高等学校

PTA会長

高橋 正次

沼宮内高等学校は、昭和23年4月に開校し、もうすぐ80周年を迎える学校です。令和7年度は21名の新入生を迎え全校生徒71名。小規模の学校ではあります、その特長を生かし、先生方は子ども達一人ひとりと距離が近く親身に接していただき、子ども達も生き生きと学校生活を送ることができます。沼宮内高等学校と言えばホッケー部、全国区の運動部ですが、ホッケーに限らず全ての子ども達が輝いています。先生方には本当に感謝申し上げます。

さて、本校のPTA活動ですが、今年度より、PTA会長を拝命し右も左もわからないまま、副会長、各学年役員、すべての保護者、先生方のご協力をいただきながら事業を進めております。まずは、登校時一声運動（6月・9月）、保護者、先生方により通学路・校舎周辺にて実施。次に、体育祭にて昼食時の「PTAおふるまい」（6月）調理室にて麺類・おにぎり・唐揚げ・フランクフルト・かき氷等を子ども達に提供、大好評でした。また、10月開



▲登校時一声運動



▲体育祭おふるまい

沼宮内高等学校は、昭和23年4月に開校し、もうすぐ80周年を迎える学校です。令和7年度は21名の新入生を迎え全校生徒71名。小規模の学校ではあります、その特長を生かし、先生方は子ども達一人ひとりと距離が近く親身に接していただき、子ども達も生き生きと学校生活を送ることができます。沼宮内高等学校と言えばホッケー部、全国区の運動部ですが、ホッケーに限らず全ての子ども達が輝いています。先生方には本当に感謝申し上げます。

さて、本校のPTA活動ですが、今年度より、PTA会長を拝命し右も左もわからないまま、副会長、各学年役員、すべての保護者、先生方のご協力をいただきながら事業を進めております。まずは、登校時一声運動（6月・9月）、保護者、先生方により通学路・校舎周辺にて実施。次に、体育祭にて昼食時の「PTAおふるまい」（6月）調理室にて麺類・おにぎり・唐揚げ・フランクフルト・かき氷等を子ども達に提供、大好評でした。また、10月開

催予定の沼高祭（文化祭）では、保護者と同窓会が協力し参加する企画を現在進めておりまます。保護者のみなさまには、自分が学校に対し何ができるか真剣に考え、積極的に参加していましたことに感謝申し上げます。PTA活動は、子ども達のためのもの、生徒一人ひとりが主役でいきいきと有意義な学校生活を送れるようこれからも先生方、地域と連携し活動して参りたいと思います。

今年度、調査広報委員会に関わらせていただきます。他校の広報紙を見る機会はありませんでしたが、委員会活動を通じて、県内のみならず東北6県の広報紙を拝見することができました。実際は、拝見というレベルではなく、審査員の目でじっくりと拝見しました。広報紙個々に学校の特徴が紹介されておりました。PTAの広報紙ですので、PTA活動の紹介はもとよりなかなか学校の様子を見る機会がない保護者にとっては、子ども達の様子が紹介されていることも重要な役割を広報紙が担っているものと思います。

今、時代は、デジタル社会となり子ども達の学習はパソコンやタブレット機器を利用した学習が定着しています。また、メール等を活用した保護者への連絡も当たり前です。東北地区の高校でもPTA広報紙を紙媒体ではなく、IT機器を用いて保護者に見てもらいやすい配慮を導入する事例もあります。広報紙の在り方も変革の時かもしれません。

最後になりますが、今後も県高P連広報の発行に向けて皆様のご協力をお願いいたします。

（調査広報委員長・小野寺 幸司）

（編集委員）調査広報委員会
委員長 小野寺幸司（福岡高校）
副委員長 立桶 善孝（軽米高校）
委員 新坂 正章（南昌みらい高校）
平賀 弘典（花北青雲高校）
及川由里子（高田高校）

本校は、平成三十一年四月に開校したばかりの学校で、現在小学部から高等部まで百六十五名の生徒が学んでいます。

本校が開校し、PTA活動を行おうとしていた矢先、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、思うように活動する事が出来ず、PTAの歴史も浅かつたこともあり、活動の企画・運営は事務局が主体となっていました。

令和五年に新型コロナウイルス感染症が5類となり、PTA活動も少しづつ動き始め、最近では、保護者の方々がお互いに思うことを声に出し、「とりあえずいろいろな事を試してみよう」「やつてみてダメであれば修正していくこう」というスタイルであれば更してみました。

子どもたちの将来を考え、卒業後の進路先となる施設見学会を行ったり、グループホームの職員を学校に招き、各事業所の特色を聞くような研修会に取り組んだりしました。また、小学部を

対象とした「親子レクリエーション」を行い、親子そろって楽しい時間を過ごすような活動も行っています。

小高い丘に聳え立つ本校からは都南地区が一望でき、周辺の地区にはりんご畑が多く、のどかな場所で子どもたちは学校生活を過ごしていますが、年代ごとに「りんご」と様々な関わり方をしています。皆さんのが「りんご」を手にする際、ひがしば嬉しいです。



▲PTA施設見学会



▲親子レク 大玉転がし



▲PTA研修会 グループホーム事業所を招いた研修会